



お気に入りや最近読んだ本を持ち寄って紹介する参加者。本がなくても気軽に参加して、話を聞くのも楽しみ方のひとつ。

「本と一筆」は、印象に残っている本やおすすしたい本を紹介して語り合い、最後にガラスペンで一筆書くイベントです。20代から60代の方まで、幅広い年代の方が参加しています。本は一人で楽しむ方が多いと思いますが、誰かと本を共有することは、1冊の本を読む以上にたくさんさんの気づきや楽しさが生まれます。その楽しさをいろいろな人と分かち合いたいと思い、このイベントを始めました。

私が本を楽しめるようになったのはここ数年で、それまでは読むからには何か吸収しなければならぬという義務感を感じていました。読み切ってもほとんど覚えていない本があったり、逆に序章だけで感動することがあると、本を読んだといえ

いま必要な答えをくれる存在

本には何を求めてもいいと思う

普段なら手に取らないような本でも、紹介されると読みたくなったり、知っている本でも人によって感じ方がまったく違っていたりと、見ている世界に違いがあることに毎回気づかされます。また、本そのものの表現が自由だからこそ心も開放されることもあり、会話を通じて参加している方のことを深く知ることができ

本を通して語られるその言葉には、人の素敵な部分にじみ出ている



素敵な本と出会うように、素敵な人に出会える場

一冊の本がっなく出会い

空き家をリノベーションして6月にオープンしたゲストハウスよろっで。カフェやバー、簡易宿泊施設のほか、「人が出会いつながる場」をテーマに子どもからお年寄りまで、さまざまな人たちが集まるイベントを開催しています。今回はその中のひとつ、「本と一筆」という集まりの場をのぞいてみました。

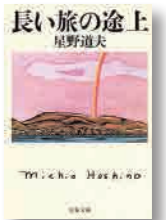
農家はつらいよ
零細メロン農家
年商1億までの奮闘記
著：寺坂 祐一



久本晃が選ぶ一冊 (写真左)

家業を継ぎ借金を返済し、売上19倍、年商1億円を突破!と思ったら、除草剤を撒かれてメロン6600玉が全滅…。どん底をみた著者の、生き残り奮闘記。

長い旅の途上
著：星野 道夫



馬場みなみが選ぶ一冊 (写真中央)

1996年、カムチャツカで熊に襲われて世を去った著者が残した、最後のメッセージ。豊かさとは、幸福とは、いま改めて問いかける静かな声がある。

人生の目的の見つけ方
著：勝屋 久



郡司紗希が選ぶ一冊 (写真右)

48歳でそれまで勤めていた日本IBMをリストラされ、どん底の淵を経験。そのとき彼が行ったのは、徹底した自己分析＝自分とつながることだった。今の時代に「自分らしく生きる」方法を紹介する一冊。

ゲストハウス「よろっで」が、本をきっかけに出会える場に?

空き家を改修し、カフェやバー、簡易宿泊施設として6月にオープンしたゲストハウス。子どもからお年寄りまで、幅広い世代が自然と集まる場をコンセプトに、鹿児島弁で「みんな」を意味する「よろっで」と名付けられました。オープン後は、さまざまな催しを毎週のように開催。この日は読書好きや、本に興味のある人たちが集まる珍しいイベントが行われていました。

ここは、よろっでの裏にある倉庫を一部改修した特設会場。昔懐かしい裸電球

が吊られ、温かみ溢れる空間には穏やかな時間が流れています。今回で3回目の開催となったこの集まりは、「本と一筆」。本が好きな人はもちろん、普段あまり本を読まない人や、本の話を知りたい人など幅広く参加できます。つまりは、誰でも気軽に参加OKという、かなりゆるめのイベントなのです。「本を読んで感じたことを誰かに話すことで、自分自身も新たな気づきや発見が生まれるはず。その一冊をもっと深く楽しめて、これがかきかけで出会いも生まれると嬉しい」と、主催する馬場さんは本が持つ不思議な魅力に期待を寄せます。5分間で自分のおすすめ本、「推し本」を紹介し合い、1位のチャンプ本を決めるビブリオバトルとはまったく違う本の紹介スタイル。最後にガラスペンで一筆、その瞬間の思いを描く。その魅力を伺いました。

11月26日(木) 19:00

ゲストハウス「よろっで」で毎月開催する「本と一筆」
次回は11月26日(木) 19:00から開催予定!



ゲストハウス よろっで
カフェ▶火水日▶11:00-14:00
バー▶月水金土▶18:00-22:30
宿泊▶1日3組限定(当分の間)
大根占中央商店街の空き家を改修し、ゲストハウスとしてオープンした「よろっで」。宿泊はコロナ対策として、3組限定で受付中。



「本と一筆」の開催情報は Instagram でお知らせします▶



ガラスペン



ペン先をインクに浸して書く「つけペン」の一種。明治35年に考案されたもので、日本が発祥です。その美しさはもちろん、独特の心地よい書き味が魅力で、世界中で愛されています。

Interview

馬場 みなみさん

